

KN グローカルリサーチレポート

2017年11月
No.19

秋も深まり、浜松でも木の葉が少し色づいてきました。

先日、冬の乾燥に備えて保湿クリームを買いに行きました。昨年と同じ商品は、容器のデザインが新しくなっていました。値段はそのままでしたので、それを購入。家に帰り去年のもの比べると、容量が120mlから100mlに少なくなっていました。そう言えば、最近、100円前後で買えるスナック菓子も中身が少なくなったように感じます。日銀は、「物価目標 2%が達成できない」と言いますが、『中身が減って価格が据え置き＝実質値上げ』になっています。

浜松への観光客 1,962万人/年

表1は、静岡県内の各市に訪れた観光交流客数を多い順に並べたランキングである。平成28年度に、静岡県内で観光交流客が最も多かったのは静岡市で2,489万人、宿泊客が最も多かったのは熱海市で302万人であった。

浜松市へは1,962万人の観光客が訪れ、237万人が宿泊した。(平成27年度は、1,828万人が訪れ、258万人が宿泊した。)

訪れた観光客に対して宿泊客の割合が高い市は熱海市で、観光に来た約2人に1人が宿泊していることになる。

■表1 観光交流客数ランキング 単位:万人

	A)観光交流客数	B)宿泊客数	B/A*100
1. 静岡市	2,489	171	6.9
2. 浜松市	1,962	237	12.1
3. 御殿場市	1,421	96	6.8
4. 伊東市	1,155	291	25.2
5. 三島市	786	28	3.6
6. 熱海市	637	302	47.4
7. 富士市	653	42	6.4
8. 富士宮市	533	22	4.1
9. 袋井市	464	6	1.3
10. 沼津市	415	81	19.5

「静岡県観光交流の動向H28」より

【浜松市での外国人宿泊客数は 約 33万人/年】

平成28年度の、浜松市における宿泊客数は236.7万人で、外国人宿泊客数は33.3万人であった。外国人宿泊客の占める割合は14.1%となっている。

ここ数年間の推移を見ると、浜松市には毎年度230～250万人が宿泊している。外国人の宿泊客は、平成24年度の約12万人から年々増え、平成27年には約40万人となったが、平成28年度は約33人に減少した。

■表2 浜松市における宿泊客数 単位:千人

	H24	H25	H26	H27	H28
全 宿泊客数	2,303	2,198	2,281	2,580	2,367
外国人 "	118	136	228	399	333

静岡県観光政策課と浜松市観光交流課の統計から作成

【増加する訪日外国人 旅行消費額＝16万5,412円/人】

観光庁は、9月中旬に、昨年よりも約1ヶ月半も早く訪日外国人客数が2,000万人を越えたと発表した。この訪日客の今年7月～9月の消費額は前年同期比26.7%増の1兆2,350億円で、

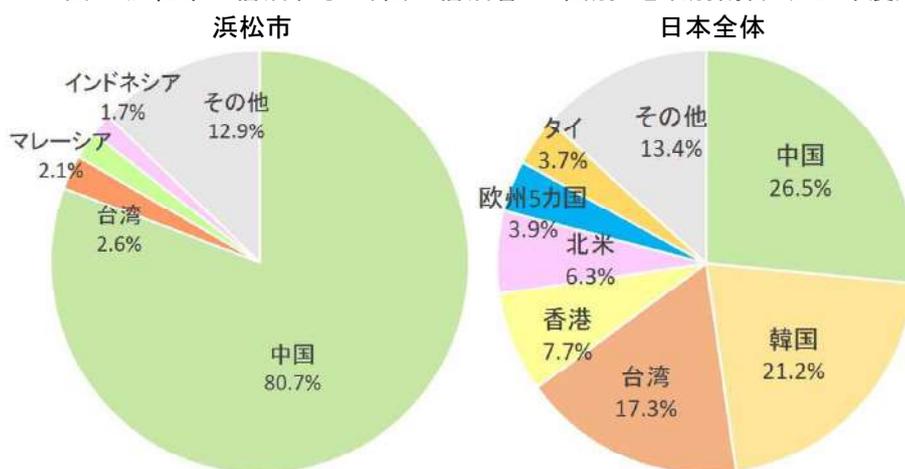
一人当たりになると前年同期比 6.6 %増の 16 万 5,412 円となった。政府は、東京五輪の 2020 年に 4 千万人、2030 年に 6 千万人の訪日客を受け入れる目標を掲げている。

今後も訪日外国人客は増加すると予測されるので、訪日中の日本国内での消費や EC サイトでの海外からの日本製品の購入など、日本にとっては新たな販路の拡大が見込まれる。今まで海外ビジネスには縁の薄かった中小企業や個人でも、日本にいながらでも、外国人相手のビジネスができる時代になってきた。

【浜松へは中国の団体客】

浜松市内に宿泊する外国人宿泊者の国別・地域別割合を見ると、中国が 269,262 人と 8 割を占め、次いで台湾 8,753 人、マレーシア 6,982 人、インドネシア 5,344 人となっている。日本全体の割合と比べると、極端に中国の割合が高くなっている。

■ 図1 浜松市に宿泊する 外国人宿泊客の 国別・地域別割合 (H28年度)



これは、浜松・浜名湖地域が「ゴールデンルート（東京～箱根・富士山～京都・奈良・大阪）」の中間に位置し、例えば、朝から京都や奈良を観光して、夕方にバスで移動して、夜に浜松・浜名湖周辺に到着し宿泊。翌朝、富士山に向けて出発していく、団体旅行者の宿泊地となっているため、浜松へのインバウンド観光は、中国からのゴールデンルートの団体旅行者数に影響される。このような団体旅行者は、浜松での滞在時間が夜の数時間と限られるために、浜松地域の多方面の消費に結びついていない。

【団体旅行から個人旅行へ、リピーターも増加】

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」によると、平成 29 年 7 月～9 月期の訪日客の「旅行手配方法」は、個人が 80.4 %、団体が 19.6 %となっており、平成 24 年の同時期に比べて（個人が 42.1 %、団体が 57.9 %）、個人旅行の割合が高くなってきている。

また、訪日回数も、1 回目が 40.0 %、2～9 回が 48.0 %、10 回以上が 12.0 %となっており、訪日客の半分以上はリピーターである。

今後、浜松地域では、『中国からの団体客「以外」』を、浜松に呼び込む官民協働の取り組みが期待される。

執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士
(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長
(一財)日本総合研究所 客員研究員
浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org